学校番号	２１０１

平成３１年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	生物基礎（啓林館）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎では、まず、地球上の生物の共通性について学ぶ。地球には多様な生物がいるが、それらの生物には、多くの共通点があり、われわれヒトを含め、同じ地球の仲間であると感じさせられる。また、生物の多様性についても学ぶ。多くの共通点を持つわれわれではあるが、生息する環境などにより、その形質は様々である。一見相反するようなこの二つの事柄がどのようなものなのかを、学ぶ科目である。

2　学習の到達目標

生物の持つ共通性と多様性について、それぞれ理解する。また、それらの知識を元に日々変化していく地球環境に対するヒトの役割についてや、最新のバイオテクノロジーについてなど、興味関心を持ち、正しく理解できるようにする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、科学的に考察し、探究する技能を身に付けている。	生物のもつ共通性や環境に関わりについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中間考査まで	生物の特徴	生物の多様性と共通性 多様な生物の共通性 生物の共通単位・細胞 個体の成り立ちと多様性	○		○		a：生物の構造や機能について意欲的に関心・探究心を持つ。 b:生物には「細胞」「ＡＴＰ」「ＤＮＡ」「恒常性」といった共通性があることについて理解し、表現できる。 c:植物細胞の観察やブタの腎臓の解剖などの実験観察を行い、結果から考察する能力を身につける。また、基本的な実験操作を身につける。 d:生物のもつ共通性について理解し、知識を身に付けている。	学習状況 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
		細胞とエネルギー 生命活動とエネルギー 光合成と呼吸		○	○			
	遺伝子のとそのはたらき	遺伝子とDNA 生物と遺伝 DNAの構造 遺伝情報とゲノム		○				
		遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の複製 遺伝情報の分配		○				
		遺伝情報とタンパク質の合成 遺伝子の発現とタンパク質 タンパク質の合成 遺伝子の発現と維持				○		
期末考査まで	生物の体内環境の維持	体内環境と恒常性 体液とその環境 体液の調節	○			○		学習状況 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
		体内環境の維持としくみ 自律神経による調節 ホルモンによる調節 自律神経とホルモンの共同作用			○			
		免疫 免疫とは 自然免疫 獲得免疫	○	○				
	生物の多様性と生態	多様な植生と遷移 植物と環境のかかわり さまざまな植生 植生の遷移	○		○		a：生物の多様性や環境との関わりにについて、意欲的に関心・探究心を持つ。 b:気温と降水量の差ににによって環境が作られること、生物の生息地域はその環境によ	
		気候とバイオーム バイオーム		○				

		生態系とその保全 生物系の成り立ち 物質の循環とエネルギー 生態系のバランスと保全				○	って制限を受けることについて理解し、表現できる。 c:身近にある植物を観察、分類することによって、観察したことから考察する能力を身につける。 d:環境と生物の関係について理解し生態系の保全など、生態系の一部として人間を捉えるための知識を身につけている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。